

発行 伊藤ひであき事務所 豊橋市東田町西前山144-14 TEL 0532(53)3483 FAX (53)3809
EMAIL : hide@apli.co.jp インターネットホームページ <http://www.itouhideaki.com/>

豊橋出身の太田昭宏氏、公明党代表へ

9月30日の党大会で選出へ

公明党の太田昭宏幹事長代行は9月16日、党本部で開かれた全国県代表協議会后、記者団に代表選立候補を表明した。神崎武法代表が同協議会で今期限りの退任を表明したのを受けたもので、太田氏は「力強い党にしたい。少子高齢社会への対応や格差是正、アジア外交を頑張りたい。(自民党との)連立を推進し、政治にいい働きができるようにする」などと抱負を語った。

代表選は26日に立候補を受け付けるが、太田氏以外に立候補の動きはなく、30日の党大会で太田代表が決まる。(以上、MSNニュースより引用)

太田昭宏氏略歴

昭和20年10月6日、愛知県生まれ。60歳。衆議院議員当選5回。党幹事長代行、党憲法調査会座長、党総合選挙対策本部長、党政治改革本部本部長、党災害対策本部長、党現代中国研究会会長、衆議院憲法調査会委員、衆議院内閣委員会委員、公明党衆議院小選挙区東京第12総支部長、前党国会対策委員長

昭和20年10月 7人兄弟の3男として疎開先の愛知県新城市で生まれる。幼い頃に兄と姉を亡くし、実質長男として育つ。

メリヤス業や下駄屋など仕事で苦労した父母を助け、少年時代から生活の労苦を知る。

昭和31年4月 小学校5年生の時、豊橋(東郷町)へ転居。新城小学校から豊橋市立東田小学校へ転校。

昭和33年4月 青陵中学校に入学。青陵中学校時代に生徒会長として、青陵街道に夏みかん並木を植樹することを提案。「実がなったら人に取られるさ」という人に、「ボク達はそういうことのない世の中にしたいのです」と反論。

この夏みかん並木は、後に詩人のサトウ・ハチロー氏が長編詩で讃えた。あれから35年経った今も、青陵中生徒会とPTA、そして地域の皆さんの手で守り、育てられて

いる。

昭和36年4月 県立時習館高校に進学。昭和39年4月 京都大学に進学、土木工学科で耐震工学を専攻。修士論文は「土木構造物の非線型振動論」。また、相撲部主将としても活躍。得意技は「ぶちかまし」からの一気の「寄り」だった。

昭和46年 京都大学工学部大学院修士課程卒業後、社会改革に目を向けて新聞記者に。国会担当記者、論説記者として、福祉、平和問題で健筆を振るう。

当時自民党と社会党の不毛なイデオロギー対立の政治・55年体制を「パー(自民)とグー(社会)しかない、勝負の決まったジャンケン政治」と痛烈に切り、テレビで紹介されたことも。(チョキを出す公明党によって政治が活性化すると論じた。)

ジャーナリスト時代に培った的確な分析・表現力と現場第一主義で、庶民の本音を生かす、分かりやすい、生活者の政治」をめざす。(以上、ホームページより引用)

新しい福祉主義を打ち出していく

公明党の役割は、新しい平和主義や新しい福祉主義、人が輝く教育を打ち出していくこと。現実の課題としては少子高齢社会への対応 対アジア外交の再建 安心・安全社会への復活 格差是正 - などがある。現在、党大会に向け激論を交わしている最中です。

少子化対策では、児童手当を小学三年生から六年生までに、出産一時金の支給額を三十万円から三十五万円にすることなどを先の国会で提唱し、実現させた。少子化対策を掲げる政党は多いが、具体的に一番真剣に取り組んでいる政党はどこか、といったら公明党だ。

格差はどんなシステムを作っても出てくる。固定化させないことが大事。一つ一つの原因を見極め、どういう手が打てるのか真剣に考えていくのが公明党でなくちゃあならんと思っている。(以上、8月13日中日新聞対談記事より引用)

(END)